

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 5 月 25 日

【評価実施概要】

事業所番号	2173100427		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム可児		
所在地	可児市菅刈 1 3 8 9 - 1 (電話) 0 5 7 4 - 6 9 - 1 3 4 0		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町 3 丁目 7 番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年5月20日	評価確定日	平成20年6月27

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	26 人 常勤 15 人非常勤 11 人常勤換算 20.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 2 階建ての 1 ~ 2 階部分
------	---------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	99,840 円	その他の経費(月額)	38,400~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 1 日 現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護 1	7 名	要介護 2	11 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	5 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	51 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木沢記念病院、のぞみの丘ホスピタル
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

私鉄沿線沿いの大規模団地が隣接した総合施設の中にある3ユニットのホームは、開設5年が経過し、施設長と管理者の情熱を汲み取った職員によって、充実したケアが行われている。年間計画に沿った行事は、法人内のショートステイやデイサービスとも一緒に行くことも多く、その際には法人から多くの人々の協力も得て行われている。温泉旅行、紅葉狩り、花見、バーベキューの他に利用者の体調に合わせてドライブにも出かけている。家族会も年に2回開催し、利用者によるハンドベルの演奏、職員による寸劇を行うなど、利用者と家族に心から楽しんで欲しいという管理者と全職員の熱い思いが感じられる。協力病院の院長が理事長であることから医療との連携も常に取れており、家族の安心感を得ている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では「災害時の地域の協力体制」が改善課題であったが、運営推進会議や職員間でも十分に話し合い、地域に積極的に受け込み協力体制も自然に依頼できるよう取り組んできた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者が交代したばかりということもあり、さらに現場職員の忙しさから今回の自己評価は管理者が行った。前回の改善課題は、運営推進会議や職員間で話し合い、前向きに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに定期的に行われ、ホームの活動計画や行事予定の報告、外部評価を受けての取り組み状況など意見交換をしており、地域に開かれたホームとして多くの参加がある。家族の代表も参加し、幅広い意見が聞ける場もなっている。議事録も毎回作成し、次回の運営推進会議の開催へと繋げている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の苦情等は「苦情受付簿」に記入する方法をとっている。管理者と職員は家族と気軽に話せる関係作りを心がけ、家族の要望には速やかに対応している。利用者と家族とのパイプ役にもなるようにと個別の家族懇談会も計画している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の加入はしていないものの、太鼓やフラダンスなどの各種地域ボランティアの訪問や寺掃除、公民館活動への参加などを通して、利用者も地域の一員として、地元の人との交流に努力している。運営推進会議でも地元で災害時における協力を依頼し、地域での対応が着々と進行している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりを明示した法人の基本方針に加え、その人らしく暮らせるような支援に沿ったグループホーム独自の理念も作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の基本方針と運営理念は玄関と事務所内に掲示され、全職員には朝礼や日常の中で管理者が伝えている。理念に基づいたケアが実践できているか、折に触れ会議の中でも確認し合うことを意識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の加入はしていないものの、太鼓やフラダンスなどの各種ボランティアの訪問や寺掃除、公民館活動への参加などを通して、利用者も地域の一員として、地元の人との交流に努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者が交代したばかりということもあり、さらに現場職員の忙しさから今回の自己評価は管理者が行った。前回の改善課題は、運営推進会議や職員間で話し合い、前向きに取り組んでいる。	○	次回評価の際には、小項目別に分担してもいいので職員による自己評価を行い、評価の作業を通して、新たな気づきやサービスの向上と改善への一歩となるよう位置付けられたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意義を施設長と管理者は理解しており、行政や自治会・民生委員など多くの出席がある。家族の参加も広く呼びかけ、積極的にホームの紹介・災害協力体制・ヒヤリハットの統計など情報公開を行い、多方面からの意見交換の場となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政にはことある毎に各種の相談を持ちかけて常に新しい情報を得るとともに連携に努めている。	○	グループホームとして日常的に感じる問題点や課題を市町村に持ちかけるなど、地域内での高齢者介護の解決に向けた協働の取り組みが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問家族が多く、訪問時に直接報告もしているが、さらに、毎月、個別の生活や健康面の様子をホーム便りとともに送付している。急な連絡は適宜電話で行い、家族の安心感を得ている。ホーム内で撮った利用者の写真は退居の際にブックとして家族に渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者と職員は家族と気軽に話せる関係作りを心がけ、家族の要望には速やかに対応している。苦情は少ないが、いくつもの第三者窓口を設置している。利用者と家族とのパイプ役にもなるようにと個別の家族懇談会も計画している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者にはダメージを与えることが理解されており、法人都合による配置転換は努めて最小限にしている。以前勤務していた職員が再度復帰することも多く、職員を大切にする管理者の思いによって、離職は大幅に減少した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新人・中堅・管理者別に研修を行っており、その内容は職員会議やミーティングで報告している。年間研修計画により、必要時に、または、個々の希望を聞き、勤務調整をした上で参加し、スキルアップに励んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の6ヶ所にホームが合同会議を開催し、学習会や研修を行っている。地域内5ヶ所のホームによる「グループホーム連絡会」を機能させていく計画を進めている。	○	グループホーム全体の質の向上には他事業所との交流が不可欠であり、形式的でなくホーム同士が同じ視点で今後の在り方や問題点を話し合う機会を増やし、引いてはそれがグループホーム全体の向上に繋がることから、「グループホーム連絡会」の今後の努力に期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を行い、ホームや職員、雰囲気徐々に慣れて入居できるよう計らっている。また、事前に管理者が十分に生活歴などを聞き取り、円滑なサービスの開始ができるよう配慮をしている。デイサービスやショートステイの利用から入居した人もあり、入居の際には本人と家族に十分な説明も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム敷地内の畑での畑仕事、毎朝の鶏卵取り、金魚のえさやりなど、利用者に手をかけ過ぎず、見守る体制ができている。職員は「助かるわ、ありがとう」と利用者に礼を言い、喜びも悩みも一緒に分かち合い、支えあえるような関係作りに心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者が一人ひとりの嗜好や好み、小さなサインを拾い上げて記録と把握をし、利用者主体の暮らし方が継続できる支援をしている。利用者の好みはそのまま介護計画にも反映させており、「意向と意思を大切に」という施設長と管理者の思いが感じられた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成には、本人と家族が同席できるよう、管理者は時間の都合を付けて検討会を開催している。必要に応じて併設施設の専門職（栄養士・社会福祉士・介護福祉士・ケアマネジャー）の協力も得て、介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと、急変時には、随時の見直しと柔軟な対応をしている。職員会議では利用者の状態や家族の意向も取り入れ検討し、介護計画に活かしている。家族の訪問時に確認してもらい署名と捺印をもらっている。状態の変化時は、時間に捉われず検討会を開催し、家族に意向を聞き取り、状況変化の説明をし、計画変更について了解を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のショートステイやデイサービスの建物や設備を活用して、施設サービスの利用者とホームの利用者が、レクリエーションや四季折々の行事など、一緒に楽しむ機会を作っており、地元の情報が入る場にもなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院のほか、利用者と家族の希望で選択してもらい、受診には家族が同行している。通院に関しては家族の同行が基本であるが、管理者や看護師も医師との連携の為に同行することもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設長と管理者は、利用者の重度化や終末期の過ごし方についても避けて通れないことを深く認識しており、法人内とも連携を取り、家族や関係者と相談しながら、今後も慎重に進めていく計画をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴は同性介護であり、利用者のプライドと尊厳に配慮して行っている。個人情報に関しては法人の規定に沿って家族の同意書をもっており、職員も取り扱いには万全の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者と職員はその人その人の生活ペースを守ることを大切にしており、起床時間や就寝時間など、利用者の自由意志に任せている。外出や散歩もその日の利用者の気分や体調によって決めるような柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おおまかな栄養バランスを法人の栄養士に決めてもらい、それに沿って利用者の要望に合わせた献立にしている。利用者と職員は、同じメニューで利用者には食材を柔らかくして提供するなど細かい心づかいをし、共に語り合いながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回が基本であるが、毎日の希望には調整して対応している。入浴を拒絶する利用者にも上手く対応し、入浴してもらうようにしている。夏場は毎日のシャワーも行っている。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯なども工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年末の家族との忘年会では、利用者が日々練習に練習を重ねたハンドベルを披露した。日常の何気ない会話や仕草から、利用者の得意な分野や希望を拾い上げ、支援に結び付けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気に触れることは五感にとって大切であるという管理者の思いで、日々の天候に合わせて散歩や外出に出かけている。利用者を少人数でドライブに連れ出す際には、入念な計画書を作成して安全面に配慮して行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は利用者に精神的弊害を与えることを管理者と職員は理解しており、日中は施錠していない。また、現在は職員のきめ細かいケアと支援の結果、利用者の状態が落ち着いており、無断で出ていく人は見られない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開所時からスプリンクラーを設置し、年に2回の防災訓練を日中と夜間の想定で行い、食品や飲料水も備蓄している。運営推進会議で災害時における地元の協力を依頼し、地域での対応が着々と進行している。警察に夜間の巡回を依頼するなど安全にも配慮している。	○	いつ何が起きても、全職員が即判断し、対応できるような動きを日常の中でできるような訓練も考慮されたい。また、広域・校区内での避難場所と経路について家族へ知らせておくなどの配慮も望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録され、利用者の体調と状態が即チェックできる体制作りができています。水分が必要な人には水分摂取状況も記録している。また、利用者がいつでも水分補給ができるよう、常時、水やお茶を用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングには季節の花が飾られており、中庭から採光がほどよく入る。また、廊下には邪魔になることなく、あちこちに椅子が置かれ、好きな場所で休息ができるよう配慮している。1階と2階の利用者は自由に行き来ができ、利用者はゆったりとゆっくりとホームの暮らしをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッドは無償でホームからレンタルができ、タンスやロッカーは使い慣れたものが持ち込まれている。家具の位置はそれぞれ好みの場所に置かれ、利用者個人の部屋という雰囲気、個性ある居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。